

第3章

市民・事業者の 環境への取組状況

本章では、市民、事業者、民間団体、行政がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解し実行できるよう平成12年8月に設立された「かわごえ環境ネット」等の活動を紹介しています。

かわごえ環境ネットの取組

1 川越市環境行動計画の推進状況

川越市では、平成19年3月に策定した「第二次川越市環境基本計画」に基づき、平成20年1月に「川越市環境行動計画『かわごえアジェンダ21』」を市民、事業者、民間団体及び市の4者によるパートナーシップ組織である「かわごえ環境ネット」との協働により策定し、これら4者の協働により、同計画を総合的かつ計画的に推進してきました。そして平成29年2月に「川越市環境行動計画」として内容を全面的に改定しました。

一方、平成28年3月、第二次環境基本計画の計画期間満了に伴い、市は「第三次川越市環境基本計画」を策定しています。第三次環境基本計画では、「日常生活や事業活動における環境の保全・創造のために取り組むべき具体的な行動を定めた川越市環境行動計画を、第三次計画と連動するように見直すとともに推進します。」と記載しています。新しい「川越市環境行動計画」は、2015年9月に国連が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の理念を考慮しながら、第三次環境基本計画と連動して、将来の望ましい環境像の実現に向けた市民、事業者及び民間団体の行動計画として定めたものです。第三次環境基本計画と川越市環境行動計画の2つの計画が車の両輪となり、「第四次川越市総合計画」や関連計画と整合を図りながら、将来の望ましい環境像の実現を目指します。

この計画は、「望ましい環境像が実現したときの川越のようす」、「環境に配慮した行動(チェックシート)」、「協働で取り組むプロジェクト」の3部構成になっています。

その中で、「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、第三次環境基本計画における11の大施策(「1.地球温暖化対策の推進」、「2.循環型社会の構築」、「3.生物多様性の保全」、「4.貴重な緑の保全」、「5.多様な緑の創出・育成」、「6.大気環境の保全」、「7.水環境の保全」、「8.化学物質等の環境リスク対策」、「9.歴史と文化を生かした地域づくり」、「10.快適に暮らせるまちづくり」、「11.人づくり・ネットワークづくり」)に沿って分類した、各自が実施すべき40の行動を掲げています。また、チェックシートによって自身の行動の取組状況を得点で確認できるようになっています。このチェックシートの活用により、自身の行動を振り返るとともに、他の人と比較するなど、一人ひとりの環境に配慮した行動の広がりや継続的な促進が期待されます。

ここでは、「環境に配慮した行動(チェックシート)」の2024(令和6)年度の取組結果を報告するとともに、2017(平成29)年度からの傾向と比較して、本年度の取組状況を評価します。

「環境に配慮した行動(チェックシート)」に見る環境行動の取組状況

● 「環境に配慮した行動(チェックシート)」の実施概要

「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、第三次環境基本計画における11の大施策におけるそれぞれ1~6つの行動、計40の行動について、日ごろの取組状況をそれぞれ表-1の5つの選択肢から選択して評価してもらうものです。

今年度の取組概要と全体集計を表-2に示します。2024(令和6)年度は、かわごえ環境ネット主催による行事のうち、2024年11月23日の雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座の参加者から23名、2025年3月1日のかわごえ環境ネット主催による第23回かわごえ環境フォーラムの参加者から28名の回答がありました。また、2024年12月5日から2025年1月30日までに東洋大学総合情報学部の講義科目「CSR論」並びに「コミュニティデザイン論」の履修者及び小瀬ゼミの学生の計77名が回答しました。合計で128名の回答となりました。

表-1 チェックシート各項目の評価選択肢

点数	評価
5	常に／すでに実施している
3	かなり実施している
1	ある程度実施している
0	実施していない
n	該当しない／分からない

表-2 取組概要と全体集計（比較のために2017～2023年度の実施結果も表示）

年度 実施時期		2017年度 2～2月	2018年度 6～2月	2019年度 7～11月	2020年度 7～3月	2021年度 5～2月	2022年度 12～2月	2023年度 1～2月	2024年度 11～3月
実施場所		講演会・イベント会場・大学生	講演会・イベント会場・大学生	講演会・イベント会場・大学生	大学生・川越市環境部職員・インターネット	大学生・イベント会場	大学生・講演会・イベント会場	大学生・イベント会場	大学生・講演会場
回答者延べ人数		163	310	290	332	108	138	60	128
回答者内訳 (年代)	20歳未満	12	113	88	148	43	7	7	25
	20歳代	61	46	46	102	48	79	41	65
	30歳代	2	6	10	17	0	2	2	0
	40歳代	5	13	26	27	1	3	0	4
	50歳代	8	18	4	19	1	6	2	12
	60歳代	31	17	7	12	3	8	1	5
	70歳以上	25	44	42	5	6	20	4	12
	無回答	19	54	67	2	6	13	3	5
回答者内訳 (性別)	男性	104	163	131	280	82	97	46	83
	女性	35	90	90	50	20	27	11	39
	無回答	24	57	69	2	6	14	3	6
全体集計 (得点率)	平均	38.2%	38.8%	40.3%	31.4%	33.6%	38.9%	36.0%	36.8%
	標準偏差	18.1%	17.9%	19.3%	13.6%	16.1%	19.4%	16.5%	15.7%
	最高	84.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.0%	100.0%	94.0%	87.6%
	最低	1.5%	8.2%	3.6%	6.7%	3.5%	10.0%	10.3%	11.7%

*換算点：「該当しない項目である」評価の5点を分母から外して「分子/分母×100」を四捨五入した得点

●結果と考察

「環境に配慮した行動(チェックシート)」の各項目の平均点を平均得点の降順にしたものを表-3に、項目別の回答者割合を図-1に、2017年度と2024年度を比較して得点が向上した順に、8年間の平均得点の推移を図-2に示します。

全体の傾向は毎年大きく変わることがありませんが、今回はごみ関係、交通関係の平均点が高い傾向にあります。大学生の非喫煙傾向もあり、「たばこを吸わないようにしている」は該当しない「n」も含めれば9割以上に達しています。これも例年の傾向ですが「しない」行動(ごみのポイ捨てをしないようにしている、自転車は放置せず…など)も上位に位置しています。大施策「水環境の保全」については、「節水や水の再利用をしている」は実施率が高いものの(これも「節水」が水を浪費しない行動であるためと考えられます)、その他の項目は「0」(実施していない)、「n」(該当しない／わからない)が8割以上に上ります。「樹林地の保全・管理活動に参加している」や「遊水地に関する調査や清掃などの保全活動に参加している」というのは、そもそもそういう機会がほとんどない状況であるとも言えます。

標準偏差は、評価のばらつきの大さを表しています。「ごみのポイ捨てをしないようにしている」は高評価でさらに標準偏差が低く、実施して当たり前の行動になっています。標準偏差が最も大きいのは「生態系に被害を及ぼす外来種を放したり植えたりしないようにしている」ですが、これは意図的に放したり植えたりしているというわけではなく、外来種というものをそもそも意識していないのではないかと推察されます。

図-2で2024年度と2017年度の値の変化を比較すると、最も評価が上昇しているのは「買い物の際は買い物袋を持参している」です。レジ袋有料化やプラスチックごみの削減意識の高まりにより行動変容が起きたものと考えられ、さらに行動することが常識化しているものと考えられます。上昇率としては4番目ですが「生ごみ減量や自家処理をしている」も学生の回答者が多いアンケートでありながら評価が上がってきていることが注目さ

れます。一方で、コロナ禍で大幅に下がった「参加している」系の項目については、評価が回復傾向にあるもののコロナ禍以前よりも評価を下げているものがほとんどとなっています。

「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、川越市ホームページで入手可能です。「川越市環境行動計画(平成29年2月改定)」を検索してページにアクセスし、その中にある「環境に配慮した行動(チェックシート)」をダウンロードしてください。

表-3 項目別の平均点(2024年度の平均点の降順)

順位	No.	大施策	環境に配慮した行動	5	3	1	0	n	平均	標準偏差
1	29	8. 化学物質等の環境リスク対策	たばこを吸わないようにしている	108	3	2	5	10	4.7	1.2
2	33	10. 快適に暮らせるまちづくり	ごみのポイ捨てをしないようにしている	109	15	1	2	1	4.7	0.9
3	34	10. 快適に暮らせるまちづくり	自転車は放置せず駐輪場を利用している	100	14	4	3	7	4.5	1.2
4	10	2. 循環型社会の構築	ごみは分別し、ごみ出しのルールを守っている	82	33	11	2	0	4.1	1.4
5	7	2. 循環型社会の構築	買い物の際は買い物袋を持参している	74	27	15	10	2	3.7	1.7
6	35	10. 快適に暮らせるまちづくり	過度な自動車の利用をひかえ、徒歩や自転車・公共交通機関を利用している	70	29	20	5	4	3.7	1.7
7	20	6. 大気環境の保全	近所に迷惑な騒音・振動・悪臭を出さないように気をつけている	62	39	22	4	1	3.5	1.6
8	13	3. 生物多様性の保全	生態系に被害を及ぼす外来種を放したり捕えたりしないようにしている	55	17	19	23	14	3.0	2.1
9	21	7. 水環境の保全	節水や水の再利用をしている	35	26	53	11	3	2.4	1.8
10	36	10. 快適に暮らせるまちづくり	災害時に対する備えをしている	27	33	53	15	0	2.2	1.7
11	8	2. 循環型社会の構築	生ごみの減量や自家処理をしている	27	24	30	38	9	2.0	1.9
12	1	1. 地球温暖化対策の推進	省エネルギーを実行している	15	33	68	9	3	1.9	1.5
13	17	4. 貴重な緑の保全	地元で生産された農産物を食べている	15	36	52	22	3	1.9	1.6
14	3	1. 地球温暖化対策の推進	省エネ効果のある製品を購入または使用している	14	32	48	27	7	1.8	1.6
15	5	1. 地球温暖化対策の推進	エコドライブを実践している	13	18	20	34	43	1.6	1.8
16	6	2. 循環型社会の構築	日用品を購入する際は環境配慮商品を選んでいる	13	31	45	36	3	1.6	1.6
17	9	2. 循環型社会の構築	リユース品を購入または使用している	10	36	43	35	4	1.6	1.5
18	31	10. 快適に暮らせるまちづくり	景観をよくする行動をしている	13	26	37	45	7	1.5	1.6
19	30	9. 歴史と文化を生かした地域づくり	地域の歴史や文化に関心を持ち、郷土学習や文化財の保護活動への協力、まつり等への参加をしている	18	16	33	56	5	1.4	1.8
20	38	11. 人づくり・ネットワークづくり	講演会・シンポジウム、ワークショップ等の環境学習に参加している	19	17	24	65	3	1.4	1.8
21	14	3. 生物多様性の保全	河川・池沼などの水辺に親しみ、水質・生き物の調査や観察をしている	22	9	23	67	7	1.3	1.9
22	16	4. 貴重な緑の保全	減農薬・堆肥利用の環境保全型農業の実施またはそのような農産物を消費している	12	19	35	49	13	1.3	1.6
23	28	8. 化学物質等の環境リスク対策	合成洗剤でなく石鹸を利用するなど、化学物質の使用を控えるようにしている	10	23	37	51	7	1.3	1.6
24	18	5. 多様な緑の創出・育成	生け垣の設置や、屋上、壁面(緑のカーテンを含む)、庭などの緑化をしている	15	12	41	53	7	1.3	1.7
25	27	8. 化学物質等の環境リスク対策	ホームページや広報等を通じて、化学物質等の環境リスクに関する知識を身に付けるようにしている	7	24	43	50	4	1.2	1.4
26	4	1. 地球温暖化対策の推進	環境性能に優れた自動車を購入または使用している	10	15	12	52	39	1.2	1.7
27	12	3. 生物多様性の保全	野生の生き物に関心を持ち、生き物調査や観察会、講座に参加している	17	12	24	71	4	1.2	1.8
28	32	10. 快適に暮らせるまちづくり	クリーン川越市民運動(ごみゼロ運動)や自主的な地域環境美化活動に参加している	13	19	17	73	6	1.1	1.7
29	40	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境活動を広める活動をしている	14	17	18	75	4	1.1	1.7
30	22	7. 水環境の保全	節水型機器を導入している	12	15	24	65	12	1.1	1.6
31	39	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境に関するアンケートに回答したり意見公募に応募したりしている	8	14	39	65	2	1.0	1.4
32	15	4. 貴重な緑の保全	樹林地の保全・管理活動に参加している	14	10	18	81	5	1.0	1.7
33	2	1. 地球温暖化対策の推進	太陽光、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーシステム・機器を購入または使用している	10	11	19	78	10	0.9	1.5
34	37	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境施設や環境スポットの見学に参加している	7	15	24	76	6	0.9	1.4
35	19	5. 多様な緑の創出・育成	花いっぱい運動や市民花壇など地域の緑化活動に参加している	3	12	21	84	8	0.6	1.2
36	24	7. 水環境の保全	雨水を下水管に流さず地下に浸透させる設備(雨水浸透ます)を設置している	6	6	12	80	24	0.6	1.3
37	11	2. 循環型社会の構築	ごみの減量・リサイクルに関するイベントや体験講座に参加している	4	7	27	80	10	0.6	1.1
38	23	7. 水環境の保全	雨水利用をしている	4	6	16	92	10	0.5	1.1
39	26	7. 水環境の保全	湧水地に関する調査や清掃などの保全活動に参加している	2	5	11	103	7	0.3	0.9
40	25	7. 水環境の保全	河川浄化活動に参加している	0	8	10	103	7	0.3	0.8

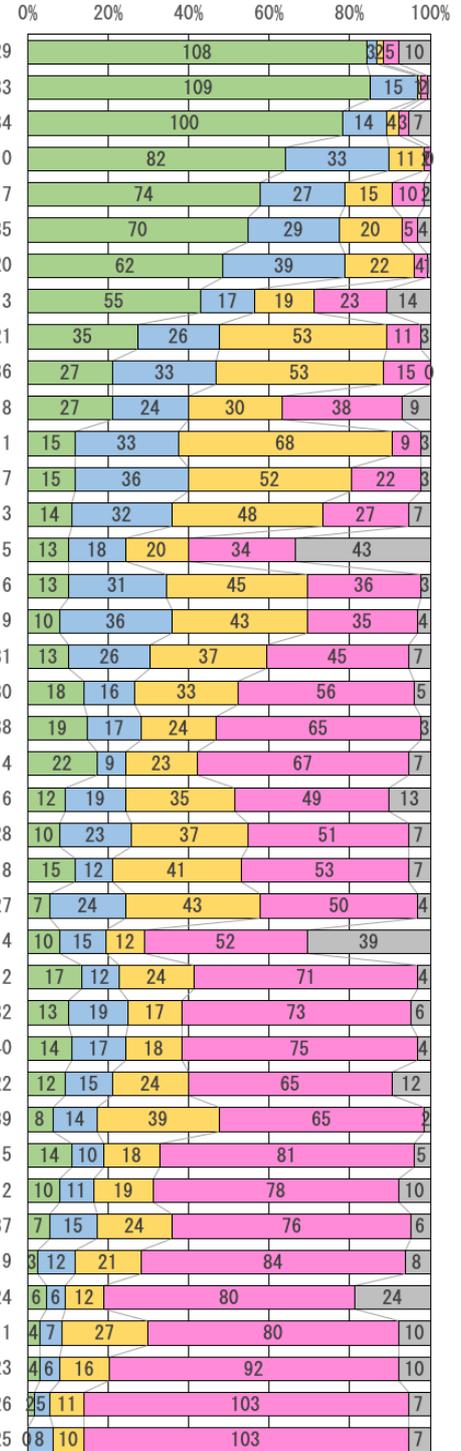


図-1 項目別回答者割合(2024年度、平均点の降順)

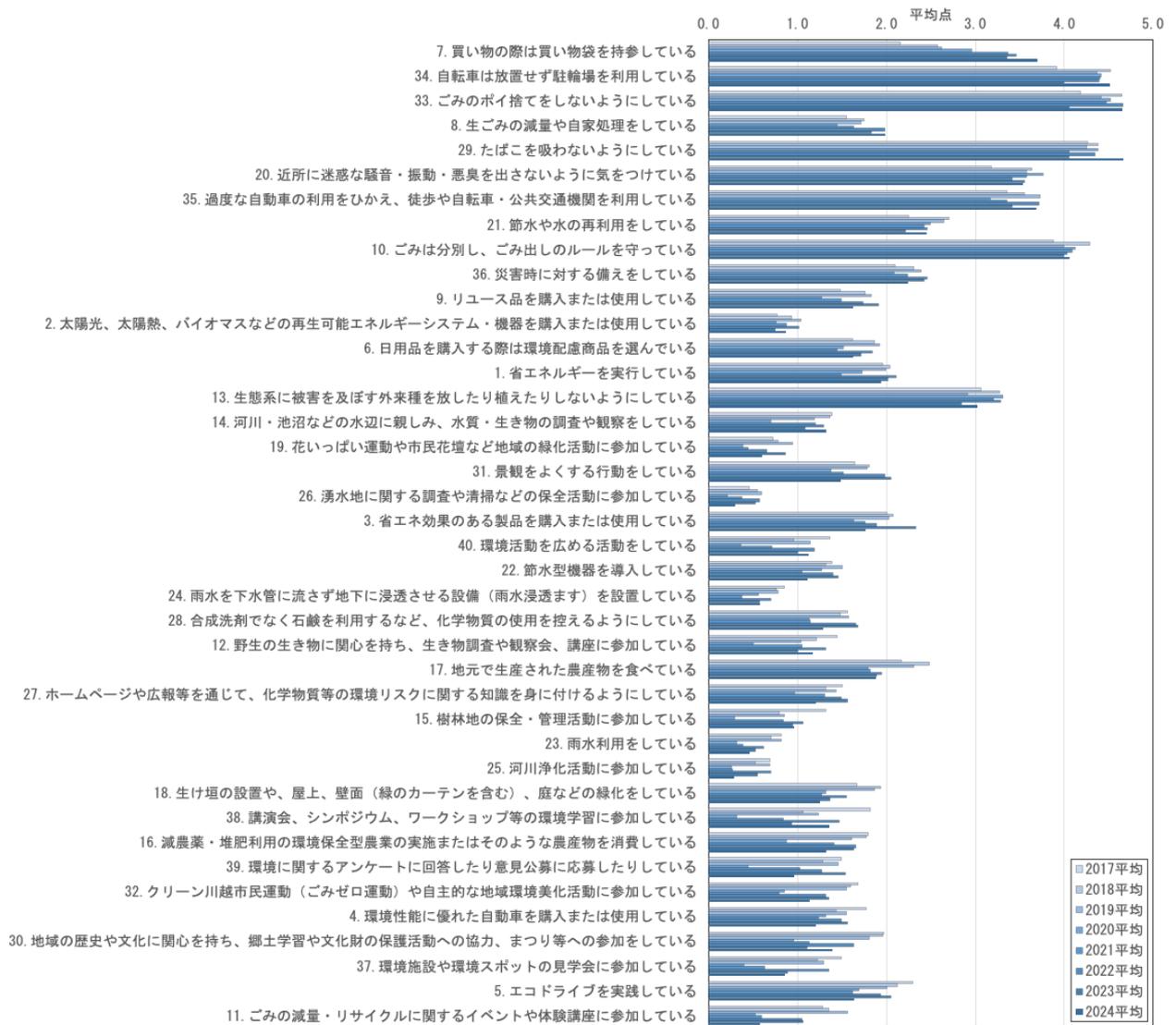


図-2 2017～2024 年度の各項目の平均得点の推移（2017 年から 2024 年にかけて平均点が向上した順）

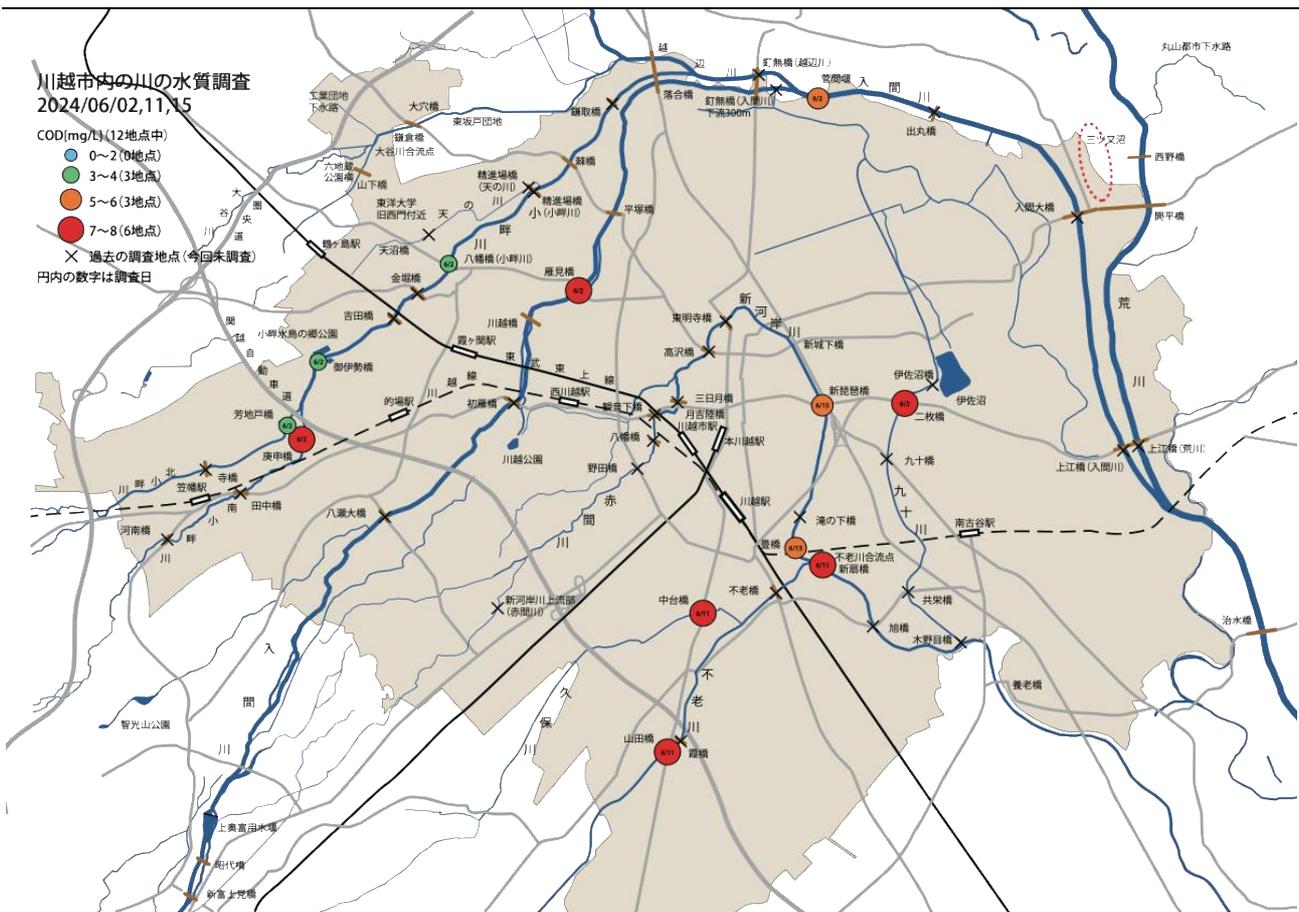
2 川の一斉水質調査

毎年6月に実施される「身近な水環境の全国一斉調査」に参加する形で、本会では2005年以来川越市内の川の水質調査を行っています。20年目の今年は全国一斉調査日の6月2日(日)を基準として、一部を11日(火)・15日(土)に実施しました。参加者が4組5名と限られたこともあり、最小限で流域の水質の状況がわかる12地点の水質調査を実施しました。

調査結果は、全般的に例年よりもCOD(化学的酸素要求量)が高い傾向にあり、0~2mg/Lはなし(2023年は3地点)、3~4mg/Lが3地点(同13地点)、5~6mg/Lが3地点(同2地点)、7~8mg/Lが6地点(同2地点)でした。

水質は常に変化しています。6月2日午前の入間川の場合、当日の深夜に大雨があり、流量が増していました。雨は、本来清浄なものですが、初期雨水は大気や屋根などの建物、地面などの汚染物質を多く含むと言われています。また、川の流量が増すと川底や河川敷の汚濁物質も流れてくる可能性が考えられます。さらに、新河岸川流域の一部では合流式下水道となっていて、大量の雨水が下水道に流入した場合は、未処理の下水が新河岸川に流出する場合があります。水質は、流域全体の状況や長期的な変化も見ても要因を判断する必要がありますが、これまでの調査では、雨天後の川の水質は比較的よい傾向にありましたので、いろいろな状況があることを改めて実感することができました。

各調査者が採水したときの写真とコメントを併せて掲載します。





南小畔川庚申橋から上流(6月2日)
わずかに濁りがあり水質はよくない



小畔川芳地戸橋採水の様子
(6月2日)田植えが終わって休耕
田は草ぼうぼう



小畔川八幡橋から下流(6月2日)
土羽だった護岸が一部コンクリートに



入間川雁見橋から上流(6月2日)
例年より濁っていて浮遊物と水量も多い



九十川二枚橋から下流(6月2日)
けっこう深くて水が淀んでいる



採水した水(6月2日)
入間川の水は沈殿物が多く見られる



不老川山田橋から上流(6月11日)
小魚数匹、アメンボ



新河岸川新琵琶橋から下流(6月15日)
橋梁工事中、水量は普段と変わらない



新河岸川畳橋から下流(6月15日)
魚体の大きな鯉が多数泳いでいた

3 第23回かわごえ環境フォーラム

2025年3月1日(土)9:30~16:30にウェスタ川越活動室1・2において、「第23回かわごえ環境フォーラム」を開催し、午前と午後の部を合わせて延べ120名ほどの参加者がありました。また、この行事に合わせて下記報告会のレポートを含めた「かわごえ環境活動報告集」をフルカラー印刷で発行しました。同時に報告集のPDF版を右記ホームページに掲載しました。本行事の開催にあたって、今回も川越市の後援、パイオニア株式会社川越事業所、武州ガス株式会社、株式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社の4社の協賛をいただきました。

午前の部 かわごえ環境活動報告会

午前の部「かわごえ環境報告会」では、10件の報告がありました。

(1)本間嬉(栗原薫・横山三枝子)「こどもエコクラブ ワンダーなんだあくらぶの活動報告」

2024年4月から環境活動のエコクラブで全5回の活動の様子を紹介しました。写真の紹介をメインに樹木医の実験、たばちゃん農園のトウモロコシ収穫体験、「わたしたちの雨水フォーラム」連動企画などの発表でした。

(2)福島櫻子(星野学園小学校3年)「水と仲良くしよう～雨水について考える」

8月の尾崎昴嗣さんのワークショップ「雨水はどこに行くの？」に参加して書いた「夏休みの自由研究のレポート」の紹介。発表することが決まって、新たに調べたこともあり、大人たちを驚かせるプレゼンテーションとなりました。

(3)小池ひかる・中村碧音・菊池圭(川越女子高等学校生物部)「特定外来生物クビアカツヤカミキリの脅威」

川越市内で2023年度に成体が見られ、2024年度にフラスが発見されたことでサクラを調査。クビアカツヤカミキリを捕獲、標本にし、「日本のサクラ危機」を回避するための報告でした。標本箱の回覧はムシ臭も独特で、参加者の興味を引きました。

(4)野中和奏・日下友結・瀧口遙(川越女子高等学校生物部)「荒川水系における外来エビと在来エビの分布と絶滅危惧種ヌカエビの保全」

2015年から準絶滅危惧種のヌマエビ属ヌカエビと埼玉県の外來種カワリヌマエビ属の調査継続と、昨年から保全活動を始めた報告でした。在来種は、TOPPAN朝霞工場内のビオトープでの繁殖が成功し、今後の研究につながりましたが、自然の河川では外來種が増えていることが確認されています。

(5)青柳遥(栗原薫・横山三枝子)「わたしたちのアクション」『あらだんガーデン』ができるまで

新宿町五丁目自治会のコミュニティガーデンができていく様子を報告しました。自治会館を利用した座学、土地の改変等の下準備を含め、高齢者の集いの場として動き始めました。「みんなの庭プロジェクト」は2025年も続きます。

(6)成川正行・丸岡巧美(丸岡技術士事務所)「照明の基礎とその適用例」

蛍光灯からLED灯に切り替えが進んでいる現在、安全で快適な光環境を実現するための基本事項や適用例について解説がありました。人感センサー動作の説明もあり、日ごろからの光環境の省エネの大切さを報告。

(7)丸岡巧美・成川正行(丸岡技術士事務所)「照明の評価とその省エネ例」

LED灯の計測による実験結果や導入上の課題、省エネ対策事例の発表でした。性能比較や調光による削

減電力など具体的な数字を示し、照明設備の電力削減を提案。

(8) 増田純一(かわごえ里山イニシアチブ)「河川に農薬や化学肥料を流さない&環境に負荷をかけないおこめ作り」

2014年から続く活動報告。7月の田んぼの生き物調査では毎年点数が上がっていること、日本工学院専門学校との漫画冊子製作、日本薬科大学マコモ成分分析&土壌分析研究などの多様な活動を報告。

(9) 増田知久(かわごえ環境ネット)「社会環境部会+α活動報告」

環境対話カフェや講演会「雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座」、広報紙投稿の報告。

(10) 賀登環(かわごえ環境ネット)「自然環境部会の報告」

本会自然環境部会の活動概要及び絶滅危惧種データ集め等保全活動の報告。

最後に特別セッションとして株式会社パイオニアによるサウンドスケープの実演がありました。



(1) 本間さん(中央)



(2) 福島さん



(3)(4) 川越女子高校のみなさん



(5) 栗原さん・横山さん



(6) 成川さん



(7) 丸岡さん



(8) 増田純一さん



(9) 増田知久さん



(10) 賀登環さん

午後の部 講演会・パネルディスカッション

午後の部の前半は、平井純子先生(駿河台大学副学長)による講演会、後半は、パネルディスカッションを行い、登壇者及び会場の参加者も一緒になってディスカッションを行いました。

【前半】講演会「Wellbeing な地域づくりーエコツーリズムをツールとしてー」

講師に、駿河台大学副学長の平井純子先生をお呼びし、飯能市のエコツーリズムの取組や2020年にフィンランド・オウル大学客員教授として1年間滞在し持続可能な観光や環境教育について学んだこと、現在取り組んでいる放課後児童クラブの運営などについてお話いただきました。

“Wellbeing”という言葉は近年よく耳にするキーワードです。これは、「身体的・精神的・社会的に良好であり、全てが幸せな状態であること」を意味するもので、Wellbeing な地域づくりにおいて、今求められていることは持続可能性であり、“sustainable wellbeing”であると平井先生は話してくださいました。それを実践しているの

がフィンランドであり、白夜と共に生きるフィンランドの暮らしぶり、家族との暮らしを大切にする生き方、充実した社会保障とワークライフバランス、何度も学び直しができる社会システムなど、幸福度世界一の国の様子をご紹介いただきました。

里地里山を活用したエコツーリズム先進地といえる飯能市での取組についてもご紹介いただきました。

エコツーリズムとは、環境保全・環境教育・地域貢献含めた観光のことで、エコツーリズムの参加リポート率は、通常10%程度のところが、飯能市は50%と高い率を誇っています。そんな飯能市でも、エコツーリズムの課題として3つ挙げていました。1つめはガイドの高齢化、2つめはボランティアの域を超えられない、3つめは自己実現のための活動になっていること。これらの課題を解決するために、2つの改善策を講じてきました。それは「稼ぐ力の醸成」と「高付加価値化」という取組です。具体的には、先生が代表理事を務めている(一社)里山こらぼの放課後児童クラブでの活動やエコツーリズムの企画です。参加費数百円のツアー企画を、5,000円や1万円にしたところ、ツアーにふさわしい服装・装備の参加者が集まるようになり、満足度も高まったことや、居住者にとっての日常は、旅行者にとって非日常であることの再認識から、自然の中での食の提供の仕方を工夫することで付加価値を高めることができたそうです。

エコツーリズムはエコロジーとエコノミー両輪が稼働できるように意識改革をしていくことの重要性を話してくださいました。

【後半】パネルディスカッション「飯能から学ぶ川越らしいエコツーリズムー伝える、広げる人づくりー」

パネリストに、横山三枝子・増田知久両かわごえ環境ネット副理事長と平井純子先生に参加いただき、伝え広げていく人をどう育て作りあげていくかを中心に議論を進めました。

- ・自分が関わっている活動のほとんどはボランティアだが、近年はそのボランティアをすることができる人が以前に比べ少なくなってきた。
- ・過去にグアテマラで仕事をしていたとき、物がなくても生き抜く力があり、生きることを楽しむ人の様子を見てきた。一方日本は、情報がありすぎるわりに、生きることを楽しんでいる人をあまり見かけない。
- ・ボランティアと事業は違う。
- ・エコツーリズムの参加費が500円だったり、収穫体験が150円だったり参加費が安い。
- ・飯能では、エコツーリズムを手がけた市民団体ではボランティアで行うことにプライドがあり、手弁当で実施していたが、次第に疲弊していった。
- ・飯能の初期のエコツーリズムは、林業振興しようという動きで、環境保全中心の内容になっていた。
- ・ボランティアは、自分のためのもの。社会的事業をするなら、お金をまわさないとだめという意識改革が必要。
- ・飯能のエコツーリズムでも1日ツアーで参加費2,000円だったころは、参加者の服装が山歩きにふさわしくなかったり、食事に文句を言ってきたりしていた。参加費を15,000円にしたら、参加者からの文句はないし、山歩きにふさわしい服装で、しかもマイカップなど自分の装備まで持参するなど、客層の質が上がった。
- ・川越は農業のまち。農業系のエコツーリズムを考えたい。
- ・川越は神社・寺院も多いので、駅から歩いて巡るエコツーリズムも企画できる。
- ・水田ツアー、自転車で巡るツアーなど川越らしいツアーが企画できる。
- ・個人の店の市街地巡りツアーを市民向けにできるのではないかな。
- ・日常の中の非日常を提供。
- ・エコツーリズムの持続可能性という視点で考えていく必要がある。低額なサービスをなくす必要はなく、それを例えば市民向けに実施し、高額サービスのジャンルをつくりそれを他県参加者に実施してもいいので

はないか。

- ・ちらしもターゲットによってデザインを変えるといい。ターゲット(市民向け、他市民向け)を明確化する。
- ・目利きのいいお客様、消費者を作っていくことも必要。呼ぶ層と来る層の違いを考える。
- 議論された意見を踏まえ、「伝える人をどう育てていくか」
- ・伝える人が楽しそうにしていることが大切。
- ・伝える人は意識的に楽しく伝えること。
- ・参加者も伝える人も、一緒に食べて楽しく過ごせるような企画は好ましい。
- ・ガイド養成講座をつくり、環境リーダーを育成していくような計画も提案したい。飯能では年2回実施している。
- ・環境リーダーは、知っていることの5%話せればよいだけ、あとは参加者を楽しませ、自分も楽しむとよい。

3人のパネリスト、そして会場からも議論に参加いただき、伝え広げるための人づくりについて意見をいただきました。これからのエコツーリズムは、ターゲットの細分化、それに合わせた企画やちらしづくりなど手法が多様化する必要がありますが、それに合わせた養成講座を準備することで持続可能な人づくりが期待できると感じました。そして、なんと言っても、自分の日常の中の非日常に気づき、価値を認め、自分自身がそれを楽しむこと。この”楽しむ”ことが人づくりの一番の要になると思いました。

参加者のみなさん、午後に長時間議論に参加いただきありがとうございました。



平井純子先生による講演



パネルディスカッション(右から左へ、横山三枝子さん、増田知久さん、平井純子先生、司会役の飯島希さん)

4 川越市環境計画見直し意見交換会

この年次報告書(かわごえの環境)の基となっている「第三次川越市環境基本計画」は、合冊されている「川越市緑の基本計画(平成28年3月改訂版)」とともに令和7年度(2025年度)が目標年度となっていて、今後、令和8年度(2026年度)を始点として令和17年度(2035年度)を目標年度とする「第四次川越市環境基本計画・第二次川越市緑の基本計画」の策定が予定されています。また、かわごえ環境ネットが「第三次川越市環境基本計画」と両輪として、川越市と協力して行動指針として作成した「川越市環境行動計画(平成29年2月)」も同じく令和7年度(2025年度)としており、川越市環境基本計画とともに新たな計画を策定する予定です。

かわごえ環境ネットでは、これらの計画とも含めた内容を確認して、市民の目線で見直しを行う「川越市環境計画見直し意見交換会」を2023年7月26日から始め、2023年度は毎月1回ずつで計9回、2024年度は2か月に1回のペースで6回の会議を開催しました。

2024年度は、前年度にまとめた「第四次川越市環境基本計画の策定に向けた川越市への提言」をベースに「環境施策の検討会」という名目で具体的な内容を議論しました。

たとえば「川越の森林を将来にわたり守るためにどのような施策を行っていけばよいか」として、(仮称)川越市森林公園計画を計画から実施に動かすことなど樹林地保全のための方策、具体的には森林環境贈与税の活用、経済・防災・健康などの施策と絡めて検討していくこと、人材育成の方法など、また、雨水活用の普及を図る方策、農作物の有機栽培を促進するための「オーガニックビレッジ」宣言の検討などを行いました。

また、「第四次川越市環境基本計画・第二次川越市緑の基本計画」素案に対する意見の集約

前年度まとめた「第四次川越市環境基本計画の策定に向けた川越市への提言」(下記)については、6月26日に川越市へ正式に提出しました。

「川越市環境計画見直し意見交換会」は、新たな「川越市環境行動計画」が策定されるまで継続して実施する予定です。

第四次川越市環境基本計画の策定に向けた川越市への提言

かわごえ環境ネット
理事長 小瀬博之

環境の変化が深刻になる中、世界的には気候変動枠組み条約の締約国会議(COP)が開催され、日本でも2020年10月に菅義偉総理大臣が2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。持続可能な生産と経済の体制を早期に実現すべく、GXリーグ基本構想(経済産業省)、みどりの食料システム戦略(農林水産省)、第六次生物多様性国家戦略(環境省)などの国家的なプロジェクトが動き出しています。先進的な取り組みを実現している地方自治体も増えています。川越市でも2021年5月には川合善明市長が「小江戸かわごえ脱炭素宣言」を表明しました。2025年に策定される予定の第四次川越市環境基本計画は、こうした流れの中で野心的で責任ある中身を示さねばなりません。そこで、かわごえ環境ネットでは、2023年8月から12月にかけて、第四次川越市環境基本計画策定に向けた意見交換会を9回、20名のメンバーで開催してきました。その結果を「第四次川越市環境基本計画の策定に向けた川越市への提言」として提出いたします。川越市には、この内容を考慮したうえで第四次川越市環境基本計画を作成していただくことを要望いたします。以下に、本提言の趣旨および重点項目を簡潔に記します。環境目標、大施策、中施策をチャートで表わした施策体系案を別添いたしますが、以下の記述では大施策各項目との関連も指示いたします。

【脱炭素宣言の責任ある実行計画および実行体制】

脱炭素の目標となる 2050 年までに残された期間は約25年です。この間に目標を実現するのは容易ではない上に、わずか6年後の 2030 年までの進捗度合いが目標達成の成否を左右すると言われています。第四次環境基本計画がどの程度野心的な目標を掲げ、実効性のある計画と体制を示せるかという点に、川越市における目標達成の見通しがかかっていると云えます。市長と行政の真剣さが今こそ問われる、まさに中心課題です。（施策体系案:大施策1）

【温暖化への適応策のみならず緩和策を】

川越市のみならず埼玉県中心部では、他地域よりも急速に温暖化が進んでいます。熊谷地方気象台の年平均気温は、1900 年から 2020 年にかけて2.5℃上昇しています。その一因は、土地利用の変化によるヒートアイランド現象の影響もあるでしょう。2023 年夏の日中の川越市中心部の猛暑が命に関わるレベルに達していたという事実は、記憶に新しいところです。このままでは子ども、高齢者を含む弱者が夏の日中に外出することが不可能になるだけでなく、観光客も減少するでしょうし、熱中症で倒れる観光客も出てくるでしょう。そうなってしまえば観光業をはじめとする経済にも悪影響が及びます。暑さ対策として、学校校舎等へのエアコン設置が進んでいます。しかし断熱材の敷設を合わせて行っていないため、エネルギーの無駄を生んでいるだけでなく、建物の冷却効果も不十分にとどまっています。温暖化への適応策は費用対効果を重視して実施してください。適応策と同時に、かわごえ環境ネットは温暖化の緩和策を実施することを要望いたします。緩和策にもさまざまありえる中、下に述べるように川越市において最重要なのが緑地、湿地、湧水、田畑の減少を食い止めることです。そのために市税や補助金等のあらゆる制度的な手段を用い、緑地面積の回復、私有地の緑化促進、アスファルト・コンクリート除去、生産緑地も含めた田畑の維持、田畑に従事する農業者の確保等を強力に押し進めてください。（施策体系案:大施策1, 6, 7）

【緑地、湿地、田畑面積の確保】

川越市の脱炭素および気温上昇対策において、さらに言えば水害等の災害対策において、最重要なのが、雑木林をはじめとした緑地、湿地、湧水、田畑の面積を確保することです。現状では、これらの土地の面積は長期的に見て減少傾向にあります。2022 年の樹林地は 317ha ですが、1996 年からの26年間、年平均8ha の勢いで減少しています（出典:統計かわごえ）。最大で計11箇所あった市民の森も 1998 年以降相次いで計6箇所 19,359 m²が指定解除となり、現在では計5箇所 40,168 m²のみとなりました（環境政策課提出資料による）。それと並行して、2000 年から 2018 年の間に田畑は約15%減少する一方で、宅地面積は約25%も増加し川越市の面積の30%以上を占めるようになってきています（出典:統計かわごえ）。こうした土地利用状況の変化によってヒートアイランド現象が加速しています。河川改修や貯水施設の設置は進んでいるものの、土地利用の変化に伴って土壌の保水・遊水機能が失われ、近年増加傾向にある短時間強雨時に処理能力を超える雨水が流れ込むことで洪水・内水氾濫の被害が頻発・激甚化する可能性が高まっています。一例を挙げると、新河岸川流域の水収支は蒸発量散32%、河川流出量43%、地下水涵養24%ですが、地下水涵養の割合を年間降雨量の3分の1(33%)に引き上げるべきであると「新河岸川流域水循環マスタープラン」には明記されています。新河岸川流域の中でも、川越市を含む不老川ブロックの涵養割合は17%とさらに低くなっています。市民の「水循環」の認知度が低いことも課題です。緑地や河川や田畑は日差しを吸収し、地表と地下の間の水分の交流を促すことで、暑熱を和らげてくれます。それに対してコンクリートやアスファルトは日差しを照り返し、地表付近の気温を上げています。また、雑木林や緑地や田畑の減少により内水氾濫などの水害のリスクが増大しています。今後、住宅地の排水設備容量を上回る豪雨の発生確率が増大すると予想されている中、緑地

や田畑の面積を確保しておくことは死活的に重要です。相続によって緑地が失われている現状がありますが、その税負担を軽減するための施策の充実を要望します。（施策体系案:大施策1, 5, 6, 7）

【生物多様性の保全・回復】

現在、川越市では急速に生物多様性が減少しています。正確な数値を出すことが困難なのですが、このこと自体が問題です。第三次環境基本計画には川越市版レッドデータブックの作成が盛り込まれているにもかかわらず、いまだ着手されているようには見えません。川越から姿を消した生物種の正確な数値を出すことはできませんが、多様な生物種の生息地が減少していることは確実に言えます。それは、上記のように樹林地、湿地、湧水、田畑の減少であり、宅地やコンクリート建造物の増大に他なりません。第三次環境基本計画で掲げた「武蔵野の面影を残す緑の保全」という目標を達成するための実行体制が形成されていないだけでなく、その不作為に対する責任もあいまいにされています。最優先事項として、川越市の生物多様性の約50%が保全されている(仮称)川越市森林公園計画地における緑地の持続可能な確保に向けた施策及び体制強化を強く要望します。生物多様性の減少は、緑地、湿地、湧水、田畑等の減少と関連しています。多様な生物なしでは緑地も存続できません。これらの環境の確保が生物多様性の保全につながり、生物多様性の保全のための対策が環境の維持を可能にします。この観点からも、川越市にとって緑地、湿地、湧水、田畑等の保全は際立った重要性を帯びています。（施策体系案:大施策3, 4, 5, 6, 7）

【環境のためにも農業振興】

既述の通り、温暖化対策、水害リスク軽減といった観点においても田畑の果たす役割は重要です。しかし第一義的には田畑は、市民の食糧確保という本来の意味において欠かせません。食料生産・流通を全体として見たときに出す二酸化炭素排出量を「カーボンフットプリント」と言いますが、脱炭素を実現するためにはこの値を極力低下させる必要があります。それは、環境に配慮した農業と地産地消を通じて実現しますが、そのためには何よりも農業従事者の確保が欠かせません。学校給食の地場産化・有機化、市民の農業参加の促進等の施策を取り入れて、農業振興の優先順位を早急に上げる必要があります。（施策体系案:大施策3, 7）

【最優先課題は緑地と田畑を守ること】

以上、行政とともに川越市の自然環境を20年にわたって観察してきたかわごえ環境ネットの知見に基づき、第四次環境基本計画策定に際して提言を提出する趣旨および重点項目について説明して参りました。要するに、脱炭素においても、生物多様性保全においても、自然災害予防においても共通する最重要課題は、

「緑地、湿地、湧水、田畑の減少を食い止めること」

この点にあります。化学物質などの環境リスク対策や、歴史や文化と調和した形での環境政策など、これまでの努力の継承も重要です。こうした従来の課題を維持しつつも、目下の大目標に向けて大胆に、市民・事業者・行政の総力を結集する体制づくりをお願いいたします。川合善明市長および行政担当者の責任ある対応を求めます。川合善明市長および行政担当者の責任ある対応を求めます。（施策体系案:大施策1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8）

別添資料「望ましい環境像、環境目標、施策体系の見直し案」

望ましい環境像（案）

「豊かな自然を未来につなぐまち」

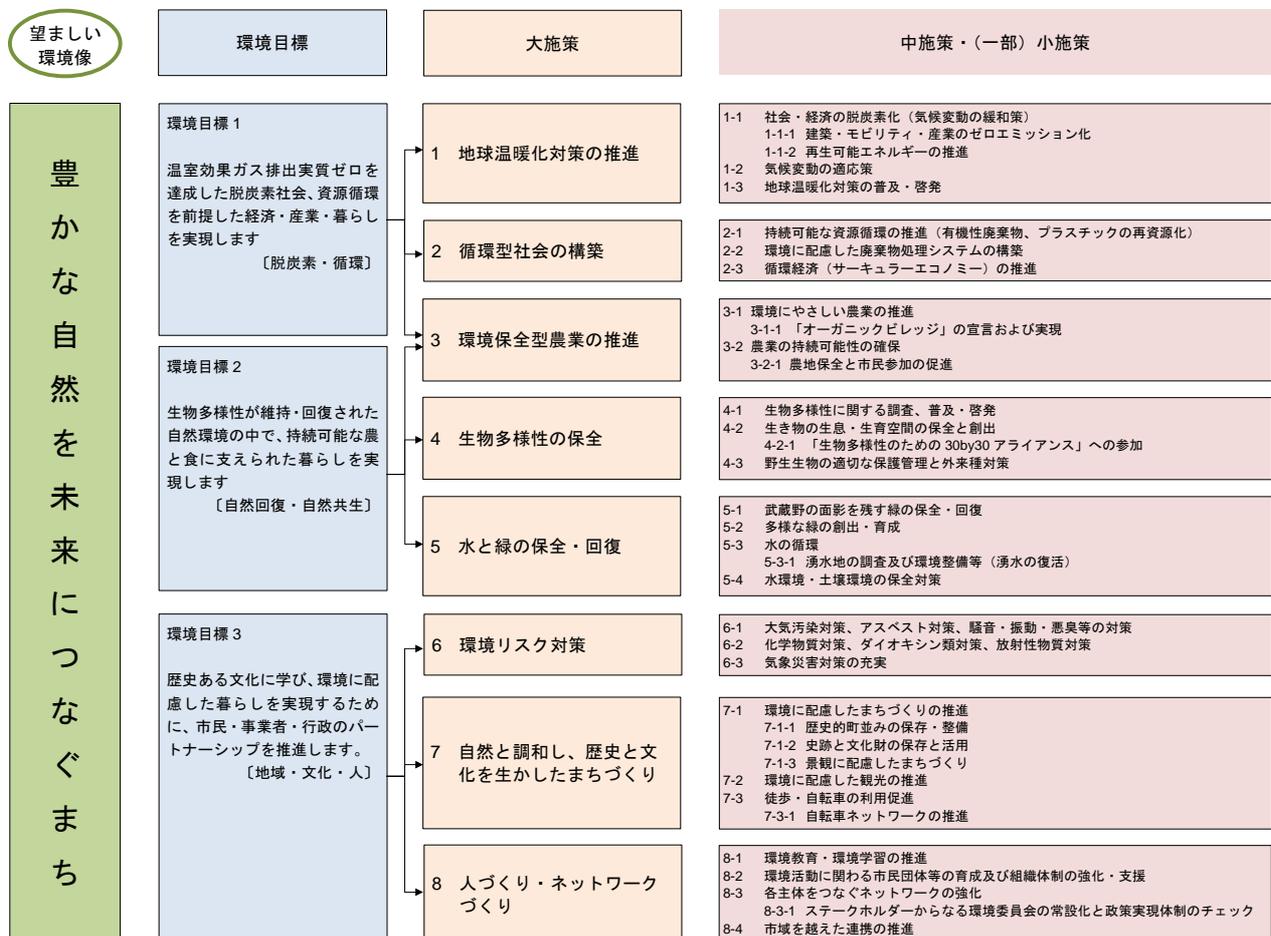
環境目標（案）

- 環境目標1: 温室効果ガス排出実質ゼロを達成した脱炭素社会、資源循環を前提とした経済・産業・暮らしを実現します。〔脱炭素・循環〕
- 環境目標2: 生物多様性が維持・回復された自然環境の中で、持続可能な農と食に支えられた暮らしを実現します。〔自然回復・自然共生〕
- 環境目標3: 歴史ある文化に学び、環境に配慮した暮らしを実現するために、市民・事業者・行政のパートナーシップを推進します。〔地域・文化・人〕

施策体系（案）

1. 地球温暖化対策の推進(環境目標1)
2. 循環型社会の構築(環境目標1)
3. 環境保全型農業の推進(環境目標1, 2)
4. 生物多様性の保全(環境目標2)
5. 水と緑の保全・回復(環境目標2)
6. 環境リスク対策(環境目標3)
7. 自然と調和し歴史と文化を生かしたまちづくり(環境目標3)
8. 人づくり・ネットワークづくり(環境目標3)

施策体系の見直し案（図）



5 社会環境部会の活動報告

2024年の社会環境部会では昨年より活動が始まった「環境対話カフェ」を3回、講演会を1回実施しました。環境対話カフェでは身近な環境問題であるごみについて取り上げ、第2,3回では公園の剪定木の循環をするバイオネストについて学び、実際に児童遊園に設置しました。講演会では雨水の活用方法等についての講座を開催に多くの方にご参加頂きました。気候危機・脱炭素社会・生物多様性の保全など大きな環境課題への対処の必要性が迫っています。社会環境部会では身近な環境を少しでもよくしていきたいという市民活動を推進していきます。

【2024年度の社会環境部会の活動】

No	活動内容	実施時期
1	【環境対話カフェ】第1回ごみを見直すお話し会	7月27日(土)
2	【環境対話カフェ】わたしたちの緑と公園 第2回 聞いてみよう! バイオネストってなに?	9月8日(日)
3	【環境対話カフェ】わたしたちの緑と公園 第3回 やってみよう! つくろう! バイオネスト	9月28日(土)
4	【講演会】 「雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座」	11月23日(土)

【コラム】社会と環境について思うこと

- (27) 自然を守ることは風景を守ること [2024年5・6月号 No.197]
- (28) 私ができることは何だろう～対話から生まれるもの～ [2024年7・8月号 No.198]
- (29) 2024年夏雑感 [2024年9・10月号 No.199]
- (30) まるくまわり、バランスよく [2024年11・12月号 No.200]
- (31) めざせ! 川越に豊かな湧水と清流を [2025年1・2月号 No.201]



【報告】環境対話カフェ（第1回）「ゴミを見直すお話し会」（7月27日、社会環境部会・霞ヶ関北自治会共催）

開催趣旨

7月27日に霞ヶ関北自治会環境部とかかわでえ環境ネット共催で2024かすみがせききた環境対話カフェ（第1回）『ゴミを見直すお話し会』を実施しました。地域環境対話を活動とする本イベントは昨年から行っています。今年は、昨年の環境対話カフェで関心を持つ人が多かった「ゴミと資源」について、川越市役所資源循環課の方をお呼びしてお話いただきました。後半は参加者同士でゴミに関して感じていること、困っていることなどについて意見を交わしました。参加者は13名でした。

実施結果

川越市資源循環推進課の方からは、川越市のゴミの現状と課題、剪定枝のリサイクルとして川越市で取り組んでいる草木類資源化施設と「肥え土」の話をしていただきました。「肥え土」は刈り取った草木類を細かく砕いて発酵させ、土壌改良材として生まれ変わらせる、と

いうすばらしい取り組みです。「肥え土」を実際に利用したことのある参加者もいました。

質疑応答では具体的な数字に対する疑問点、すばらしい設備があってもそのキャパシティが活用されずに眠っている面もあるという指摘もありました。

後半の参加者同士の対話ではゴミの分別が不明確な方がいるとの意見がいくつか出ました。そこから、住民同士の横のコミュニケーションと、住民と自治会と行政との縦のコミュニケーションを密に取ることが大切ではないかという話に発展していきました。

この日に出た質問や意見は、かわでえ環境ネットを通して環境政策課に提出することとなりました。

今後の予定

今年の環境対話カフェでは具体的な活動として、剪定枝などで枠を作り枯葉や刈った草を捨てると自然にかえるという手作りコンポスト「バイオネスト」を

児童遊園に設置予定です。バイオネストを知るための講座、そして実際のバイオネスト作りを9月に実施予定です。

（小川夕子）



講演後の質疑応答の様子



参加者同士の対話の様子

【報告】かすみがせききた環境対話カフェ（第2・3回）わたしたちの緑と公園（9月8・28日）

開催趣旨

9月8・28日に霞ヶ関北自治会環境部とかかわでえ環境ネット共催でかすみがせききた環境対話カフェ『わたしたちの緑と公園』を実施しました。剪定枝などで枠を作り、枯葉や刈った草を捨てると自然にかえるという手作りコンポスト「バイオネスト」を児童遊園に設置するという企画でした。両日、川越市南大塚の栗原造園さんを講師としてお招きしました。

昨年から続いている地域のつながりでの対話を中心としたかすみがせききた環境対話カフェでは、この地域ではゴミ問題に関心が多いことがわかりました。そして今回、地域で出る草刈りのゴミを減らすための「バイオネスト設置」という取り組みにつながっています。

実施結果

1日目の「聞いてみよう！バイオネストってなに？」では、栗原造園の栗原薫さんに緑と環境、バイオネストについてのお話を伺い、その後、質問や参加者同士の意見交換を行

いました。参加者は10名でした。

「庭が一番身近な自然」というお話から、「循環」という話になり、剪定ゴミをなるべく出さずに土に還す、活かすということで「バイオネスト」の話になりました。後の意見交換では、地域の公園の整備の問題点、今後どのように公園を活用していきたいか、などの意見も交わされました。

2日目の「やってみよう！つくろう！バイオネスト」では、角栄団地第5児童遊園にバイオネストを作成しました。参加者は11名でした。

この日は草刈りから始まり、円形のバイオネストを作るための杭を打ち、剪定した枝を円状に編み込むようにしていきました。でき上がった様子は大きな鳥の巣のようでした。参加者で汗を流して楽しくバイオネストを作ることができました。

今後の予定

今年の環境対話カフェはこれで最後となり、来年度も地域のつながりでの環境対話を行っていく予定です。また、バイオネストの活用、周知を行っていきます。

（小川夕子）



9月8日の講演



9月28日の杭打ち



でき上がったバイオネスト

【報告】雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座（11月23日）

開催概要

日時：11月23日（土）9:20-12:00

場所：ウェスタ川越（川越市新宿町1-17-17）3階研修室2,3

第1部 「雨活って？川越市の雨水は？」 一座学編一

①小さな雨活のすすめ～東京都墨田区の事例紹介

講師：NPO 法人雨水市民の会 理事・笹川みちるさん

講演概要：まずはクイズ形式で川越の水事情を理解していきながら、墨田区の実情による雨活の話へと移っていきました。緑が少なく90%がコンクリートやアスファルトで覆われており、雨水と汚水と一緒に流す「合流式下水道」がほとんどであることと、荒川と隅田川に挟まれている立地条件から、都内でも屈指の水害危険地域ということで、雨水貯留の取り組みを着々と進め、大雨の際には事前に全ての貯留タンクを空にしておくことで下水への急激な雨量増加を減らし、内水氾濫被害を少しでも少なくしていくという説明には大きな気づきがありました。

＜参考資料＞雨水市民の会：やってみよう雨水活用 (<https://www.skywater.jp/katsuyo>)



笹川みちるさんの講演

②雨水と下水道の関係・宅地内雨水対策施設設置補助金について

講師：川越市上下水道局 小林武さん

講演概要：2024年8月のゲリラ豪雨で川越では1時間あたり90mmの降水量を観測しました。1976年からの統計でも短時間強雨の発生頻度は1.4倍と雨の降りかたが変化しているとのこと。雨水の一時的な流出を抑制するため、そしてその有効活用を図るため、浸透ますと小型貯留槽設置への助成金制度の説明があり、川越市民でも取り組めるこ

とがあることを理解し、この助成金を利用することで雨活を始めるきっかけとなることを願いながら聞いていました。

＜参考資料＞川越市：雨水対策施設設置補助金（右のQRコードからアクセス）



小林武さんの講演

第2部 「グリーンインフラはじめの一步」 一実践編一

①実践の事例紹介：小さな雨庭 雨樋から取った水は？

川越市内在住のかかわえ環境ネット会員石山民子さんに、すでに実施・実践していることを例として話してもらいました。雨どいを切って雨水取り出し口を取り付けたり、ネット通販で購入した雨どい用の雨水取水器にホースをつなげて庭の土に雨水を逃す工夫をしたりと、そう大きくはないという庭を利用した雨水利用例を、画像を使ってわかりやすく説明してくれ、特に専門的知識がない一般市民でもできる取り組みとして多くの方に参考にしてもらいたい内容でした。

②お試し：雨どいを切って『レインキャッチ』を取り付けてみる

画像で実践例を見せてもらった後は、実際に雨水を土に逃す方法として、糸ノコで雨どいに切れ目を入れてはめ込むだけの「レインキャッチ」を有志の方に試してもらいました。これならできるな、



参加者から注目のまなざし



糸ノコで雨どいを切る

という感想を持ちました。

＜参考資料＞雨水市民の会：当会の出版物・雨水活動グッズ (<https://www.skywater.jp/goods>)



③意見交換：雨活の思い出&疑問とアドバイス

意外と誰でも簡単に雨どいに設置できることを確認した後は、思い思いに意見を述べる時間を設け、川越市南大塚の栗原造園が手がけた市内の庭の事例や、新宿町五丁目自治会での取り組みも紹介しながら、実際に雨水を土に戻すイメージを持てるような話し合いとなっていました。

まとめ

会場には「レインキャッチ」だけでなく、他にも雨水取り出し口である「パッコン」も展示され、工夫次第で自分たちでも雨を庭土に浸透させることができることがわかってきました。

2024年8月のゲリラ豪雨により川越でも多くの地域で内水氾濫が発生しました。これからは行政に任せるだけでなく市民も一緒に取り組んでいく必要があるという思いに至り、今後も引き続きこの問題に取り組むべきであると実感した講座でした。

実践方法など、詳しい内容を知りたい方は、ぜひかわえ環境ネットへお問い合わせください。

（高澤日美子）

2024年 自然環境部会の活動報告

1. 武蔵野の雑木林 調査・保全活動

川越は市域の50%が緑地とされています。しかし、その内訳はほとんどが水田・畑・河川領域で市民が気軽に入り込むことは難しいです。樹林地としての武蔵野の雑木林は、川越の原風景ともいえる自然遺産ですが、現在次々と失われています。

市内に1996年には510haありましたが、2021年は323haになり、年平均8haの減少で計算上はあと40年ほどでゼロになります。どこで下げ止まりになるのでしょうか。

2019年頃からナラ枯れが広がり始め、夏なのに林内で葉が茶色になったコナラを見るようになりました。ナラ枯れは急速に広範囲に広がっていき、市内の殆どの雑木林で確認されています。川越だけでなく近隣の平地林でも同じような状況です。戦後からほとんど循環的な手入れをされないでここまできた平地林が、カシノナガキクイムシの格好のターゲットになったのです。今後、里山の風景がどうなるか危惧されます。

(1) 「(仮称)川越市森林公園」計画地

三芳・所沢・川越の畑作地で営まれている循環型農業(「武蔵野の落ち葉堆肥農法」)が2023年7月6日に「世界農業遺産」として認定されました。

川越の福原地区に「(仮称)川越市森林公園」計画地として38haほどのまとまった雑木林(一部畑地)があります。平成16年に公園化の基本構想が出されましたが、まだ実現には至っていません。その内、10ha余りの公有地化されたエリアを中心に「森のさんぽ道」が敷設され、多くの市民が散歩に訪れています。ここは500種以上もの動植物の生息が確認されている、川越でも第一級の在来種遺伝子プールです。

実は、ここは川越の循環型農業のメッカともいえる平地林で、今も農用林として活用されているエリアがあります。環境ネット自然環境部会では、このすばらしい雑木林を広く市民に知っていただくため、また次世代に引き継ぐために自然観察会の開催や調査・保全・再生活動を行っています。

「森を知り、森を楽しみ、森を育てる」を合言葉に毎月第2と第4の月曜日の午前中、20名前後の会員がボランティアに参加しています。2024年は17回活動し、延べ259名が参加しました。

「(仮称)川越市森林公園」計画地 調査・保全グループ
2024年活動計画・実績

「(仮称)川越市森林公園」計画地 調査・保全グループ 2024年活動計画・実績				参加者
1月	8日	話し合い・観察	来年度の計画・林内一巡	14
	22	保全活動	オドリコソウ域の手入れ	15
2月	12	保全活動	オドリコソウ域の手入れ	15
	26	保全活動	巣箱の点検・取り換え	強風中止
3月	11	保全活動	キンランの森手入れ	16
	25	調査・観察	ウグイスカグラなど早春の花	雨中止
4月	8	調査・観察	キンランの森手入れ	15
	22	調査・観察	キンランなど希少種調査	16
5月	13	調査・観察	キンラン、クチナシグサ等調査	雨中止
	27	調査・観察	希少種調査	12
6月	10	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	17
	24	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	18
7月	8	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	15
	22	調査・観察	ヤマユリ、クモキリソウなど	猛暑中止
9月	9	調査・観察	林内一周生きもの調査	17
	23	保全活動	キンランの森手入れ	13
10月	14	保全活動	キンランの森手入れ	16
	28	調査・観察	リンドウ、センブリ調査	10
11月	11	保全活動	多様性の森手入れ	14
	25	保全活動	多様性の森手入れ	16
12月	9	保全活動	多様性の森手入れ	20
合計				259

① 冬の雑木林

1月8日が年明け最初の活動日でした。この日は例年、1年間の予定を話し合います。その後、初冬の林内を巡ります。この時期の雑木林は静まり返っていて、樹々も葉を落とし梢が青空に映えています。林床は落ち葉で埋まっています。2年前から顕著になったナラ枯れ被害木が茶色の葉を残しています。また、この時期には例年、野鳥の巣箱の営巣確認と掃除をしていました。冬はシジュウカラ、エナガ、アオゲラなど野鳥の声がよく通ります。20数個掛けた巣箱を下ろして、営巣の有無を確認し掃除をして、また春の繁殖に備えます。



ナラ枯れ木

しかし、ナラ枯れ木が危険な状態になり、この冬に市が業者に依頼し、ナラ枯れ木の伐採が進行しています。重機を用いての作業であり、危険防止のために林内へ入らないことにしたので、この年は巣箱の点検は中止しました。50本以上の危険なナラ枯れ木が伐採されました。伐倒された木は外部に持ち出さず林内に残置されたため、それがたまたま希少種オドリコソウの生息地の上に置かれたケースがあり、ボランティアで除去しました。今後、残置する場合は希少種を考慮することになりました。



オドリコソウ群落地復活



伐採の重機



伐採は高所の枝落としから



伐採されたコナラ

② 春の雑木林

3月末頃から、林は一気に新緑にぬりかえられます。温暖化の影響により、開花の進行が例年より一週間くらい早まっていた。ウワミズザクラは2005年4月20日ごろに満開でしたが、2023年4月10日にはもう満開を過ぎていました。キンランも4月10日にはつぼみをつけ、例年より2週間近く早い進行でした。



4月中旬からは希少種の調査で、キンラン、ギンラン、クチナシグサ、イチヤクソウなど分布調査をしています。樹木もこの時期、花を咲かせます。ヤマザクラはそこかしこにあり、林に明かりが灯ったようです。今年は新たな希少種の発見がありました。ギンランの近縁の「クゲヌマラン」です。ギンランに似ていますが、「花びらに距がない」というのが大きな特徴です。県によっては絶滅危惧種に指定されているところもあります。



③ 夏の雑木林

夏は生き物にとって成長、繁殖の大切な時期です。樹木はいっばいに葉を広げ、空を見上げてギャップはありません。足元には昆虫、クモ、トカゲの類がうごめいています。2024年7月初旬からは連日35度以上の猛暑が続き、8月・9月になっても猛暑が続き、観測史上最も暑い夏でした。雨の少ない夏で雑木林はカラカラになりました。この年はキノコも少な目でした。ヤマユリはよく開花しました。



夏場の雑木林の手入れは旺盛な草との格闘です。この林は、外来種があまり入り込んでいませんが、アズマネザサなどは刈っても刈っても繁茂しています。在来の希少種を刈らない様、手刈りのあと動力で刈払いしています。

7月7日には「キノコの観察会」、7月27日には「虫の観察会」が市民の方を対象に行われました。オオタカが何年かぶりに営巣しましたが、残念ながら巣立ちに至りませんでした。詳細は「オオタカの営巣顛末記」をご覧ください。



6/3 オオタカのひなを見守る親



ひなに給餌する親



8/8 八王子の片倉城址 キツネノカミソリ見学に

④ 秋の雑木林

11月になると樹木の実次第に色づいてきて、ムラサキシキブの紫、ガマズミの赤が色をそえます。これらの実は、野鳥たちの貴重な食べ物になります。そして種を落とすので樹木の散布役をしていることになります。ウグイスカグラやガマズミは、この雑木林にかなりの本数がありますが、ほとんどが鳥達の仕事でしょう。手入れの際に簡単に切られてしまいがちですが、生き物の多様性のため残す手入れをしています。この頃リンドウが林床を飾ります。薄紫色の釣鐘のような花を見ると、信州かどこかの高原にいるような気分です。身近にある美しきスポットです。



センブリ 絶滅危惧種

ここで環境ネットが一昨年市制100周年記念行事として「森フェス in 川越 2022」を行いました。2023年は規模を縮小して11月18日(土)に実施しました。参加者が親子25名あまり、スタッフ40名のイベントでした。この森のすばらしさを市民に発信しました。しかし、2024年はナラ枯れ被害木が急増し、とても一般市民に入ってもらえる状況ではなくやむなく中止しました。



青空に映える紅葉

自然環境部会のメンバーが毎月この地の生き物調査を続けて16年ほ

どになります。植物、動物(昆虫、クモ、爬虫類、哺乳類など)に関するデータは市のデータベース構築に登録して将来的に利活用できるようにまとめています。

⑤ 保全・再生活動

「(仮称)川越市森林公園」計画地の公有地の保全再生活動は、19年目になります。当初はジャングル状態になった放棄地を手入れしていましたが、最近は生物多様性保全のため、植生を調査しながらの手入れをしています。このような課程で新たに絶滅危惧種が見つかったり、在来のオドリコソウなど希少種の再生につながったりしています。

夏場は旺盛に育った林床の草刈りをしています。トイレのある「第2武蔵野ふれあいの森」は散歩する市民も多く人気のコースです。手刈り班と動力班で丁寧に草刈りをしています。

2020年からは、雑木林にとって悲劇的な現象が確認されました。ナラ枯れの被害がかなり及んでいたのです。全国的には様々な場所で発生していますが、ついにこの雑木林でも50本以上の被害木がでました。防護対策は難しく、被害木は伐倒し持ち出すしかない状況です。公有地は行政が対応、民有地はボランティアが伐倒していますが、大変な労力と費用です。

11月はシュンランやイチヤクソウなど、植生豊かなゾーンの手入れに取り掛かりました。樹木も40種くらいあり、将来高木層になるヤマザクラ、アオハダ、アカシデの幼樹は選択的に残しています。また、野鳥のために実のなる木、ウグイスカグラ、ガマズミ、ウメドキなども残すようにしています。



6月～7月 第2武蔵野ふれあいの森の手入れ



11月の手入れ活動

(報告 自然環境部会 賀登環)

2. 池辺公園の調査・保全活動

池辺公園は入間川流域、八瀬大橋の近くにあり、面積1.3haの小さな雑木林です。その昔、くぬぎ山がダイオキシン問題で全国的にニュースになっていた頃、その産業廃棄物が一部八瀬大橋河畔に運びこまれていたという情報もありました。今でも一部ゴミ山が残っています。

このような背景の中で、川越市により平成20年に公園化されました。埼玉県生態系保護協会による平成19年の基本調査でキツネノカミソリ、ハグロソウなどの絶滅危惧種があることが分かり、開園当初からこれらを保護育成するために自然環境部会が協力することになり、今日に至っています。

また、造園業者の方が草刈り作業時にアズマイチゲの生息を発見され、川越ではこれまで確認がなく、珍しい種であったため、合わせて保護することになりました。そのアズマイチゲは、気難しくなかなか花を付けませんでした。この10年間、多い時で30花ほどでしたが、2021年の春にはナント、一気に300以上の開花でした。これまで他市の生息地の調査などして開花の少ない原因を探ってきましたが、分からずじまいでした。なぜ、ここでこのように多く開花したのか、例えば十分に葉が広がり栄養を蓄え、開花期が巡ってきたとも考えられます。次年度にどうなるか、気になるところでしたが、残念ながら2022年の開花数は寂しい限りでした。しかし、翌2023年は多くの開花がありました。

この林はずっと昔は入間川の氾濫があったと思われます。今でも水を好む植生が見られ、エノキ、イボタノキなどが多くあります。福原地区の乾燥気味の雑木林には見られない植生です。また、ニセアカシア(ハリエンジュ)が道路沿いに多いのも特徴です。5月下旬からの開花期は、いい香りが漂います。

自然環境部会では、毎月第2火曜日を定例の活動日として10人前後で調査保全活動を続けてきました。植物データは200種ほどです。他では見られない希少種もあり大切にしたい場所です。池辺公園周辺はモトクロスやサバイバルゲーム場、サッカーコートなどに利用されおり、採石場へのダンプの出入りも多くかなり埃っぽく、荒れた雰囲気です。さらに一時は不法土砂堆積もありました。このような中で池辺公園はオアシスのような場所です。最近は散策に訪れる方も多くなりました。



マメ科植物 クララ



ミツバウツギ



生き物調査の様子



2022年6月にひょっこりと写真の植物「クララ」が斜面に育っていました。川越では、ほぼ見なくなったもので、オオルリシジミの食草です。大切に見守っていきたいと思います。また、ミツバウツギも数本あります。



アズマイチゲなど希少種の経年開花数

	2019年	2020	2021	2022	2023	2024
アズマイチゲ	10	30	300	10	272	20
キツネノカミソリ		302	468	332	331	374
ウバユリ	44	32	78	84	未確認	23



(報告 自然環境部会 賀登環)

3. 観察会・イベントなどの報告

(1)「生き物観察会」

日時: 2024年3月23日(土) 9:30~12:00

講師: 牧野彰吾氏 場所: 「(仮称)川越市森林公園」計画地

この行事は環境政策課主催、環境ネット自然環境部会協力です。初めは室内で、牧野彰吾先生の講座「埼玉県内における外来植物が在来植物の分布に与える影響」は外来植物が在来植物を駆逐したのではなく、在来植物がいなくなったところへ入ってきた…という事例です。悪者扱いする前に在来種の居場所をなくさないようにすることが前提です。

次いで春の兆しを感じられるようになった「(仮称)川越市森林公園」計画地での観察会です。今はスミレの種類が咲いています。花盛りなのがタチツボスミレで、他にもヒメスミレも散見しました。花盛りなのがシュンランで立派な株に20個以上花を付けているのもあって、皆さんビックリです。

最後は部屋に戻り環境政策課から、今年度の「かわごえ生き物調査」についての報告がありました。



オオハナワラビが見えます



様々なスミレの特徴



シュンランの大きな株

(2)「キノコの観察会」

日時: 2024年7月7日(日) 9:30~12:00 講師: 稗島英憲氏、高杉茂氏

場所: 「(仮称)川越市森林公園」計画地 参加者: 29名、スタッフ4名

「キノコの観察会」は2008年9月21日に第1回が始まりましたので、今年で16回目になります。2010年からは6、7月の梅雨期に開催するようになりました。10回ほど経た2018年には、これまでの記録を基に「川越のきのこ」の冊子を発行しました。その頃からみると、きのこの種類や個体数は激減です。特に食菌として人気のチチタケは探すのも難しくなりました。採られすぎです。

今年も梅雨らしい雨がなく6月末から真夏日を更新する日々が続いています。水分の欲しいキノコは大変です。下見の時もを見つけるのに苦労しました。当日は親子連れの参加が多く、小さなお子さんも皆で目を皿のようにして探します。林道の脇の落ち葉が溜まったところに、オチバタケの群生があり、「きのこ、きのこ」と歓声があがりました。やがて、奥のまとまった林の中で参加者の方が精力的に探し、結構みつかりました。この日のハイライトはコゲチャイロガワリの「フェアリーリング(菌輪)」でした。よく見ると大きな円になっていました。

ひとしきり、森の中でキノコ探しをして、室内に持ち帰り鑑定です。思いのほか多く集まり40種ほどでした。他に不明種が10種ほどありましたのでざっと 50 種ほどです。地面から出る菌根菌、樹木に出る腐生菌の区別やキノコの働きなど実物を前にキノコについて理解を深めました。菌類は生態系において重要な役目をしています。樹木と栄養交換をし、森を育て、朽ち木を自然に還す掃除屋さんでもあります。自然界には不思議がいっぱいです。



このキノコ、何ですか？



今日見つけたキノコ



キノコの役割について

(3)「虫の観察会」

日時:2024年7月27日(土)9:30~12:00 場所:「(仮称)川越市森林公園」計画地

参加者:応募参加者21名、スタッフ8名 講師:佐々木英世氏(埼玉昆虫談話会)

この観察会は環境政策課との共催です。まず初めに山崎課長が、この雑木林で生き物に触れることで自然に親しんでほしい、生き物調査にもご協力をと挨拶しました。続いて、佐々木講師から「昆虫って何だろう」という問いや昆虫採集の道具の話などがあって、フィールドに出発しました。

林の中に入るとちょっと気温が下がります。ハラビロカマキリがいましたがまだこどもです。バッタの仲間はこれから大きくなります。しばらく行くと「あそこにカブトがいる！」と小学4年の男の子。「え、どこ？」何と4m位上のクヌギの樹上、スゴイ眼力です。男の子の網では届かないので、佐々木講師のグーンと伸びる網の登場です。さすが虫取り名人、網の中に入った時は周りから拍手です。この小4の男の子はこの後も高いところにいるカブトやクワガタを見つけました。結構、5mくらいのところにいるのですね。でも普通は樹皮の色と同じようなので分かりません。

ちびっ子たちも虫を捕まえては講師、スタッフに問いかけ、親御さんたちも積極的に参加されて、集中力の切れない観察会でした。この日、観察した種は甲虫、カメムシ、チョウ、バッタ、トンボ、ハチ その他クモ類、トカゲの類などでした。



(4) 田んぼの生き物調査 7月6日(土)

かわごえ環境ネットと「かわごえ里山イニシアチブ」との共催。田んぼや用水路で魚、エビ、クモ、トンボなど見つけ。いきもの指標はこれまでで最高点でした。また、テレビ朝日の取材が入り、後日放映されました



(5) 小畔川魚とり遊び

日時:2024年9月28日(土)9:30~12:00 実施場所:かほく運動公園向い側、小畔川親水ゾーン

参加者:22名 スタッフ:7名

7月から連日の猛暑もお彼岸で一服しました。その後は秋雨前線、熱帯性低気圧で雨予報が続き、開催が危ぶまれましたが天気予報はことごとくはずれ、川の水位も平常通り、当日も薄曇りで楽しく川遊びができました。このイベントは参加受付初日の10分間で定員いっぱいになり、その後もキャンセル待ちが続くという人気でした。川越は川に恵まれています、なかなか川遊びのできる場所やチャンスが少ないのかも知れません。開会時に安全のための注意事項を伝え、お子さんにはライフジャケットを付けてもらい川に入ります。岸辺のアシが生えているところでガサガサをしますが、今年は岸辺のアシが少ないのです。8月末の大雨で堤防いっぱい増水した際に流されたようです。河川にも気候変動が押し寄せています。

小一時間、手網で魚とりに挑戦、オイカワ、エビなどをゲットしました。川面にキラキラと魚が跳ねるのが見えますが、手網ではなかなか捕まりません。ここで投網名人のスタッフがエイッと網を打つと、オイカワ、カマツカ、コクチバスなどが入りました。まさに一網打尽です。

この後、捕れた魚を大型水槽に入れ、おさかな教室です。川の生き物のつながり、ブラックバスのことなど話題がたくさんありました。捕れた魚は希望で持ち帰りです。親子ともども楽しかったとのことで、早くも来年の予約がありました。



いざ、川の中へ



エイッ! 投網名人



おさかな教室

(6) 水上公園生き物観察会

日時:2024年10月5日(土)9:30~12:00 参加者:7名、スタッフ7名

講師:佐々木英世氏(埼玉昆虫談話会)

環境政策課と自然環境部会の共催行事です。当日は朝から小雨模様でキャンセルもあり、参加者は少なめでしたが、少数精鋭というか集中力の切れない観察会になりました。きわめてゆっくりのペースで植え込みの中から虫たちを見つけ出します。「虫愛ずる姫君」のような可愛らしい2人のお子さんが虫を見つけるとは、講師の佐々木さんに説明してもらいます。大人の参加者も童心にかかり、楽しみました。この日雨の中でしたが、40種近い昆虫、クモが観察できました。



(7) 「古谷湿地魚観察会」

日時:2024年10月26日(土)9:30~12:00

このイベントは環境政策課主催で、協力は自然環境部会と「小畔川の自然を考える会」です。古谷湿地の面積は約9万㎡、川越市唯一の湿地と名のついた貴重な緑地帯です。周囲は高いフェンスで囲まれ、普段は一般市民がこの地域に立ち入ることは出来ません。立ち入りが可能となるのは、このイベントが行われる時に限られます。一昨年から市の方で子ども用のウェダーを準備し、お子さんも中に入って、夢中で魚とりをしていました。今年は天気も良く穏やかな日よりで、親子9名の参加でした。ヌカエビ、スジエビ、オイカワ、タイリクバラタナゴなどが多く捕れましたが、珍しいものでは水生昆虫「ミズカマキリ」が捕れました。これまでの観察会では出現していないもので、近ごろは生息数が激減し、県によっては絶滅危惧種に指定されているところもあります。部屋に戻って採捕した魚類を皆で観察しました。



(8) 「キタミソウ観察会」 11月3日(日) 9:00~12:00

キタミソウは川越で偶然確認されましたが、とても貴重な植物です。「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に指定されている22種の中の一つです。この観察会は埼玉県生態系保護協会川越坂戸鶴ヶ島支部との共催です。当日は13名の参加でした。



(報告 自然環境部会 賀登環)

8 エコアクション21の普及推進

「エコアクション21」は、環境省が策定した環境経営の認証・登録制度です。環境に配慮した経営に取り組む企業に対し「認証」を与えるとともに、環境への取組強化を通じて、コスト削減、業務改善、従業員の意識改革、組織の活性化など経営力の持続的な向上を支援する「企業価値向上ツール」としても位置付けられています。

川越市では、「第三次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」において、事業所における温室効果ガス排出削減に向けた施策として、環境経営の普及促進を掲げており、その一環として「エコアクション21」の普及を推進しています。

市では、平成21年度からエコアクション21の認証取得を支援する参加費無料の研修会を開催しており、令和6年度までに、23事業者がこの研修会を通して認証を取得しました。



▲エコアクション21ロゴマーク

研修会の様子

9 川越環境保全連絡協議会の令和6年度事業報告

I. 環境保全に関する事業実施

1. 県外環境保全対策先進企業視察研修会

日時 2024年6月21日(金)・22日(土)

視察先 伊那食品工業株式会社

参加者 13名

目的 伊那食品工業は、「いい会社をつくりましょう -たくましく そして やさしく-」を社是とする寒天の製造会社。

「社員は家族、経営の目的は社員の幸せ」と言い切る、会社を視察。

2. 県内視察研修会・環境小江戸塾

日時 2024年10月22日(火) 午後1時00分

場所 埼玉県環境科学国際センター

参加者 7名

内容 1. 出前講座受講

講座タイトル：気候変動によって変化する地域環境を予測するには？

講師：温暖化対策担当 技師 河野 なつ美 氏

2. 生態園の見学と説明

説明者：総務・学習・情報担当 樹木医 宮川 武明 氏

3. 展示館見学

3. 2024かわごえ産業フェスタ

日時 2024年11月16日(土)・17日(日)

場所 ウェスタ川越 多目的ホール

入場者数 2日間 16,700人

<展示内容>

- ・川越環境保全連絡協議会会員企業パネル 1枚
- ・会員企業の環境への取り組みに関するスライド集 5社
- ・2024年環境経営SDGsセミナー取組事例紹介 1枚

<展示物他>

- ・武州ガス(株)(ガス管の経年劣化→現況配管材・エネファーム)
- ・新報国マテリアル(株)(ゼロ膨張合金が使用される人工衛星と耐腐食合金比較紹介)
- ・(株)奥井組(ロケット模型・断熱塗料説明模型)
- ・パイオニア(株)(プラズマディスプレイスタンド型)
- ・各企業のカタログ及びCSR報告書等の配布
- ・アンケート調査200名(回答された方に粗品配布)
- ・ロケット模型と一緒に写真撮影と将来の夢を書く(粗品プレゼント)

4. 2025年春講演会

日時 2025年2月18日(火) 午後2時00分

場所 ウェスタ川越 会議室1

参加者 31名

【第一部】

演題 地中熱エネルギーの利用

講師 埼玉県環境科学国際センター

土壌・地下水・地盤グループ 主任研究員 濱元 栄起 氏

【第二部】

演題 災害時における井戸水の有効利用

講師 埼玉県環境科学国際センター

土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 柿本 貴志 氏

【第三部】地中熱エネルギーの導入事例発表

演題 「ゼロエネルギービル」地中熱全館空調の事例

講師 倉沢建設株式会社

代表取締役社長 倉沢 延寿 氏

演題 地中熱の農業利用、工場活用の事例

講師 埼玉地中熱エネルギー推進機構SGA

会長 福宮 健司 氏

II. 諸会議

1. 定期総会

日時 2024年5月17日(金) 午後4時00分
場所 ラ・ボア・ラクテ
出席数 出席会員28名・委任状出席37名 計65名
議事 ・2023年度事業報告並びに収支決算承認の件 会計監査報告
・2024年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

2. 理事会

日時 2024年4月12日(金) 午後3時00分
場所 川越商工会議所 会議室
議事 ・県外視察研修会について
・2024年度定期総会の確認について
・2024年度役員担当割について

日時 2024年7月5日(金) 午後3時00分
場所 川越商工会議所 会議室
議事 ・県外視察研修会反省会について
・環境経営セミナーについて
・県内視察研修会について
・各委員会報告

日時 2024年8月9日(金) 午後3時00分
場所 川越商工会議所 会議室
議事 ・環境経営・SDGsセミナー反省会について
・県内視察研修会について
・かわごえ産業フェスタについて
・小江戸塾・新春講演会について
・かわごえ環境ネットについて
・埼玉県環境保全連絡協議会について

日時 2024年9月13日(金) 午後3時00分
場所 川越商工会議所 会議室
議事 ・県内視察研修会・環境小江戸塾について
・かわごえ産業フェスタについて
・かわごえ環境ネットについて

日時 2024年11月8日(金) 午後3時00分

場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・ 県内視察研修会・環境小江戸塾反省会について
・ かわごえ産業フェスタについて
・ かわごえ環境ネットについて
・ 埼玉県環境保全連絡協議会表彰推薦について

日 時 2024 年 1 2 月 1 3 日 (金) 午後 3 時 0 0 分
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・ 新春講演会について
・ 2024 年の反省について
・ かわごえ産業フェスタ反省について
・ かわごえ環境ネットについて
・ 埼玉県環境保全連絡協議会表彰推薦について
・ (その他) 西川バウム合同会社新規提案

日 時 2025 年 1 月 1 7 日 (金) 午後 3 時 0 0 分
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・ 新春講演会について
・ かわごえ環境ネットについて
・ 来期事業活動について
・ 定期総会について
・ 埼玉県環境保全連絡協議会について

日 時 2025 年 3 月 1 4 日 (金) 午後 3 時 0 0 分
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・ 定期総会について
・ 来期活動スケジュール (案) について
・ 新春講演会反省会について
・ 屋外視察研修先の選定について
・ 埼玉県環境保全連絡協議会について

3. 小 委 員 会

○総務広報小委員会

日 時 2024 年 4 月 1 2 日 (金) 午後 2 時 0 0 分

日 時 2025 年 1 月 1 7 日 (金) 午後 1 時 0 0 分

日 時 2025 年 3 月 1 4 日 (金) 午後 1 時 3 0 分

Ⅲ. 環境保全に関する資料の収集及び提供について

1. 埼玉県環境部環境政策課発行の埼玉県環境白書の配信
2. 埼玉県環境検査研究協会の環境ニュースの配信

3. 広報かわごえ環境ネット配信

IV. 埼玉県環境保全連絡協議会関係

1. 通常総会

- 日時 2024年5月16日(木) 午後3時00分
場所 パレスホテル大宮
議事 ・2023年度事業報告及び決算について
・2024年度事業計画(案)及び予算(案)について
・環境保全功労者及び環境保全優良事業所表彰式
【表彰対象事業所】学校法人東京国際大学
【表彰対象功労者】山田 智靖

2. 理事会

- 日時 2025年3月24日(金) 午後3時00分
場所 埼玉会館
議事 ・令和6年度事業報告、収支決算書について
・令和7年度事業計画案、予算案について
・役員案について
・環境保全優良事業者表彰について
・今後の事務の在り方について

3. 視察研修会

- 日時 2024年10月4日(金)
場所 入間ガス株式会社
出席 20名
内容 省エネルギーに関する先進的な取組について学び、会員企業における環境保全対策等の向上

4. 環境保全懇談会・環境行政意見交換会

- 日時 2025年2月25日(火) 午後2時00分
場所 埼玉会館 6B会議室
出席 会員14名、行政7名
内容 ・地下水を同時取出しできる地中熱技術を活用した自治体のBCP対策について、市民からの目線での提言
・埼玉県のサーキュラーエコノミーの取組について
・異常水質事故の未然防止への協力依頼
・PCB廃棄物の処理について
・フロン類の大气への排出量削減に係る取組について

V. 川越市との連携（環境経営会）

1. 環境経営SDGsセミナー

日 時 2024年7月12日（金） 午後2時00分

場 所 ウェスタ川越

参加者 47名

内 容 ・2050年脱炭素社会の実現に向けた川越市の取組
・環境経営SDGsの取組事例紹介（瀬味証券印刷株式会社 埼玉工場）
・環境経営SDGsの取組事例紹介（トーヨーケム株式会社 川越製所）
・「地域企業協働による脱炭素社会実現に向けた取組」
（芝浦工業大学 名誉教授・非常勤講師 持続可能な地域創造ネットワーク 共同代表
NPO 法人 環境自治体会議環境政策研究所 所長 中口 毅博 氏）